

# 北の大地 共闘の勝利

## 旭川市長選「明るい会」が総括



明るい会の集会で支援者と握手する西川氏＝北海道旭川市

# “沖繩に続いた”

## 政権への怒りが西川氏に

北海道旭川市で、西川将人市長が圧勝した市長選投票開票の翌12日、「明るい旭川の会」は、市長選を総括し、今後の運動について、話し合いました。

明るい会は今回、現職の西川氏を初めて支持し、自民公明などが担いだ新人に2万6027票の大差をつけ、4選を果たしました。総括で日本共産党の能登谷繁市議団長は、過去4番目に低い投票率(47・48%)となるなかで、自公候補が前回より1万票以上も減らし、西川氏は前回より得票を増やし、沖繩に続き、旭川でも安倍自公政治に審判を下したと指摘。「西川氏が前回より倍の得票差をつけて勝利したのは明るい会の奮闘と見てもいいのではないでしょうかと提起しました。旭労連など各構成団

体が発言。旭川民主商工会の代表は「電話での対話では、市政の問題だけでなく、『数にものを言わせて何でもごり押しはひどすぎる』と安倍政権への不信感がすごかった」とのべ、安倍政権への怒りが西川氏の得票増につながったと語りました。

石田尚利党旭川地区委員長が「今回の勝利は『安倍直結の自民市政に戻させない』との市民の良識の勝利であると同時に、『オール沖繩3連勝』に続く北の大地での市民と野党の共闘の勝利です」とした「声明」を読み上げ、全員で確認しました。